

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年2月6日

【評価実施概要】

事業所番号	3770103608
法人名	医療法人社団 光樹会
事業所名	グループホーム木太
所在地	香川県高松市木太町3749番地3 (電話) 087-863-5112

評価機関名	社会福祉法人香川県社会福祉協議会		
所在地	香川県高松市番町一丁目10番35号		
訪問調査日	平成19年12月20日	評価決定日	平成20年2月6日

【情報提供票より】(19年11月19日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 17年4月1日		
ユニット数	2ユニット	利用定員数計	18人
職員数	16人	常勤	11人、非常勤 5人、常勤換算 14.4人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り 3階建ての2階～3階部分
------	----------------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	55,000～60,000円	その他の経費(月額)	12,000円+実費	
敷金	有()円	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	(有) 200,000円 無	有りの場合 償却の有無	有(無)	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,300円			

(4) 利用者の概要(11月19日現在)

利用者人数	18名	男性	4名	女性	14名
要介護1	5名	要介護2	1名		
要介護3	4名	要介護4	2名		
要介護5	6名	要支援2	0名		
年齢	平均 83歳	最低	64歳	最高	100歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	水谷内科クリニック、香川県済生会病院
---------	--------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

市内住宅地の中心にあり、1階にデイサービスが併設された3階建て2ユニットのグループホームである。屋上にはウッドデッキと菜園があり、高松市内、屋島、五剣山が一望できる。高松まつりの花火見学やバーベキュー、菜園で野菜の収穫や花作りを楽しんでいる。当事業所の第一の特徴は、設置母体である医療機関に隣接し、密接な連携により、健康管理面等でその機能を活かした支援や、重度化した場合の緊急かつ柔軟な対応が確保されていることにある。入居後に利用者の状態が改善される事例が多々あり、健康管理には細心の注意が払われている。終末期では医師や家族等と十分な話し合いを重ね、医療との連携のもとに看取りを行うことも多い。施設長をはじめ、職員が一人ひとりに話しかけることを基本に、明るくこやかに介護に取り組み、利用者はゆったりと自分のペースで生活している様子がうかがえる。また、老人会をはじめ友人などの訪問も多く、地域との関わりを重視する事業所の姿勢がうかがえる。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回の調査では、分かりやすい所への理念の掲示及び啓発活動への取り組みが期待されていた。結果については職員全員に周知し、アンケートをするなど、改善点について話し合い、改善に取り組んでいる。理念の掲示については、掲示していたがもう少し分かりやすい掲示を再度期待したい。啓発活動への取り組みは地区行事への参加、ホーム行事への参加呼びかけ、デイサービスと合同の広報紙を毎月発行する等、改善されつつある。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価の意義や目的を理解し、職員が全員で話し合い、意見を出し合って取り組んでいる。結果については職員全員に周知し、アンケートをする等、問題点を話し合い、改善に取り組んでいこうとする姿勢がうかがえる。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 事業所からの報告とともに、非常時の連携や地域の連携のあり方などの話し合いが行われており、助言や意見をサービスの向上に活かしている。また、会議を通じて地元の認識も深まり、公園散策ボランティアなど、交流が始まった事例もある。市担当者とも、会議への参加を通じて連携が深まっている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 毎月個人ごとに「家族へのお便り」を作成し、写真を添えて生活状況を報告しており、家族等の安心を得ている。家族等の面会時や誕生会などの行事に参加してもらって、意見を聴いている。他にも運営推進会議で家族代表の意見を聴くほか、意見箱を設置して意見を出す機会を設けており、それらを職員全員で受け止め、運営に反映させている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地元自治会運動会への参加や祭りの獅子の訪問のほか、地域婦人会や老人会の人々がボランティアとして訪問したり、地元中学生のボランティア受け入れ等、積極的に取り組んでいる。また、作品展を兼ねたクリスマス会に、地域の人にも参加を呼びかけている。地区老人会をはじめ、友人などの訪問も多く、散歩で言葉を交わしたり、近隣住民からの野菜の差し入れや菜園の手伝いなど、交流を持っている。いろいろな場面で、地域との関わりを重視する事業所の姿勢がうかがえる。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	TLC(思いやり、愛情ある介護)を事業所独自の理念として掲げており、利用者の「いつまでもはつらつと自分らしい」生活への支援を目標としている。ただ、地域密着型サービスとしての役割を目指した内容には、まだ至っていない。	○	現在の理念等に加え、さらに、地域との交流のもとで地域と支えあい、地域との関係を保ちつつ暮らし続けることを支援する具体的なイメージを持った理念を、職員とともに考えつくりあげることが期待される。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日々のサービスの提供場面で折に触れ、施設長から話をし、理念の考え方は理解されている。しかし、管理者や職員間で理念について話し合う機会が少なく、サービス提供の場ではその考えで取り組まれていながら、理念としての認識が不足している。	○	ミーティングや申し送りの時などに日常的に話し合い、日ごろの取り組みが理念に基づくものであることを認識し、より理解を深め、意識づけられることが望まれる。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地元自治会の運動会への参加や祭りの獅子の訪問等のほか、作品展を兼ねたクリスマス会に、地域の人に参加を呼びかけている。また、地区老人会をはじめ、友人などの訪問も多く、近隣住民からの野菜の差し入れや菜園の手伝いなど、交流を持っている。いろいろな場面で、地域との関わりを重視する事業所の姿勢がうかがえる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価及び外部評価の意義や目的を理解し、職員が皆で取り組んでいる。結果については職員全員に周知し、アンケートをする等、改善点について話し合い、改善に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所からの報告とともに、非常時の連携や地域の連携のあり方なども話し合いが行われており、助言や意見をサービスの向上に活かしている。また、会議を通じて地元の認識も深まり、公園散策ボランティアなど、交流が始まった事例もある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>市担当者や地域包括支援センターを訪問したり、電話等 でできるだけ相談し、助言や情報提供を受けて、サービスの 向上に取り組んでいる。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金 銭管理、職員の異動等について、家族等に定期 的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月、個人ごとに「家族へのお便り」を作成し、写真を添え て日々の生活状況を報告している。金銭管理については、 報告後、管理簿に押印またはサインをもらっている。</p>		
8	15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員なら びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営 に反映させている</p>	<p>家族の面会時や誕生会などの行事に参加してもらい、意 見を聴いている。他にも運営推進会議で家族代表の意見を 聴くほか、意見箱を設置し、意見を出す機会を設けており、 それらを運営に反映させている。</p>		
9	18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員によ る支援を受けられるように、異動や離職を必要最 小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者 へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>結婚や他事業所の新設等により離職があったが、異動や 離職は最小限に抑える努力をしている。職員の交代にあ たっては、利用者と職員の馴染みの関係を考慮し、できるだ け利用者に影響が少ないよう配慮している。</p>		
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成す るための計画をたて、法人内外の研修を受ける 機会の確保や、働きながらトレーニングしていくこ とを進めている</p>	<p>年間計画的な研修にはまだ至っていないが、法人外の研 修や資格取得に対する支援が行われている。また、法人代 表である医師の実技等の指導や、毎日の介護の中で施設 長等による助言や指導が行われており、日々の体験のなか で学ぶ機会が持たれている。</p>		
11	20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交 流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、 相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向 上させていく取り組みをしている</p>	<p>少数であり、まだ十分ではないが、他事業所の見学や電 話、研修会参加の機会を捉えて、同業者との交流がある。 相互訪問等のネットワークづくりの具体案の検討過程にあ り、今後に期待される。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に通所介護を利用したり、施設を見学してもらって、職員との馴染みの関係やホームの雰囲気に馴染めるよう工夫している。できない人には、職員が自宅や病院を訪問し、顔なじみになるよう努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日々の暮らしの中で、一緒に作業をしたり話し合ったりしながら、利用者の今までの生活の中から多くのものを学び、時には励まされ、よきパートナーとして支え合って、一緒に生活しているという様子がうかがえる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話や表情、行動などから、本人の思いや希望、意向などを汲み取り、管理者や施設長に報告し、対応している。困難な場合は表情など、日々の観察で把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人の意向や家族の希望、医師等関係者の意見を聴き、ユニット会議での職員の意見や気づきを反映して、個別具体的な介護計画を作成しており、本人の生活度を把握したうえでの個別ケアを重視した計画となっている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的にモニタリングを行い、介護計画の期間に応じて見直しが行われている。本人の状態に変化が生じた場合は、本人や家族、関係者と話し合い、随時見直しを行い、現状に即した計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療機関との連携が密に取られているため、健康管理面や重度化した場合のホームでの生活の継続、急変時での医療機関との連携など、機能を活かした支援が行われている。また、通所介護施設の利用や通院の送迎等、必要な支援は柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関以外にも、本人や家族の希望で、かかりつけ医での受診を支援している。近くの医療機関であれば、送迎も行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合の対応について、早い段階から医師・家族等と話し合いを重ね、全員で方針を確認し共有している。重度化した場合は書面で説明し、同意を得て対応している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	呼びかけや入室時の声かけ等によく配慮されており、職員から利用者の誇りを傷つけたり、プライバシーを損なうような言葉かけや対応はみられない。個人情報の取扱いは十分認識し、留意されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな事業所のスケジュールはあるが、職員の都合ではなく、一人ひとりと向かい合って、本人のペースに合わせた支援が行われており、利用者は思い思いに自分のペースで暮らしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は利用者と一緒に会話をしながら、同じ食事を楽しんでいる。献立には、利用者の好みや味つけを取り入れる工夫をしている。食事は、朝食以外はデイサービスの厨房で作られるが、週2回程度はホームで作り、準備や片づけ等のできることをともにしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	ある程度、入浴時間帯は決めているが、遅出の職員がいる午後8時までの夜間も含め、本人の希望に合わせ、入浴を楽しめるよう支援している。最低週2回入浴しているが、入浴を拒否する人は、足浴から徐々にすすめる等、配慮している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	本人の生活歴や能力を活かして、洗濯物たたみやガーデニング、新聞整理、片づけ等の家事での役割を発揮できるよう支援を行っている。また、陶芸やカラオケ、手芸、菜園での収穫等、得意分野や楽しみごとの支援を行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	本人の希望に添って、随時近くを散歩したり、馴染みの店での買物等、戸外に出かけられるよう支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	建物の玄関は、交通量の多い道路に面している。最近徘徊の顕著な利用者があることから、危険防止ため、家族の要望や市担当課の指導もあり、各ユニット玄関に施錠している。家族等が外からは自由に開けられる構造になっているが、日中鍵をかけないケアには至っていない。	○	利用者の安全確保は重要なことであるが、施錠され外へ出られない状態で暮らすのは不安や閉塞感がある。利用者の立場で考え、出て行く気配を見落とさない見守りや連携プレーの工夫で、利用者の安全面に配慮しつつ、少しずつでも鍵をかけないケアへの工夫が望まれる。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害対策マニュアルを定期的に確認し、消防訓練・防災訓練を利用者も参加して、定期的実施している。各居室には血液型や連絡先等を記載した緊急時の連絡カードを準備しており、各人が身に付けて避難することとしている。また、施設長から地元へ、災害時の協力依頼を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量は常に把握・記録しており、栄養バランスや嗜好に配慮した献立作成により、一人ひとりの健康状態や習慣に応じた適切な支援を行っている。本人の嚥下能力に応じ、食材や調理方法を工夫している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースの中心に屋上まで開放された空間があり、ダイニングに続いてリビングが設けられ、ゆったりとした明るく居心地のよい生活空間となっている。昼のスペースでは、洗濯物たたみ等の作業や寛げるスペースとなっている。広めのベランダや屋上ウッドデッキには椅子を置き、外気にあたりながら寛げる空間が確保されている。季節ごとの飾りつけや写真、利用者の作品などが飾られ、親しみやすい雰囲気となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具は備え付けのものであるが、各人がそれぞれに家族の写真や縫いぐるみ、自分の作品など、思い思いの飾りつけをして、居心地よく過ごせる居室としている。また、足下灯を設置し、安全面への配慮がされている。		